学齢期の子どもの対人場面での自己制御行動

情動反応性・情動制御性における気質的個人差との関連

水野里恵

(中京大学心理学部)

キーワード：気質 対人場面の自己制御行動

School-aged children' self-regulation in interpersonal situations: Relationship to their temperamental differences

Rie MIZUNO

(Chukyo University, School of Psychology)

Key Words: temperament, self-regulation in interpersonal situations

目 的

本研究は、学齢期に達した 2010 年出生コホートを対象に、情動反応性・情動制御性に係る気質的個人差と対人場面での「自己」の制御行動との関連について検討する。

就学前期に、行動的抑制傾向(情動反応性に係る気質)とエフォートフル・コントロール(情動制御性に係る気質)次元における個人差は、対人場面での「自己」の制御行動に関して異なった関与の方向を示した(水野, 2017)。行動的抑制傾向と自己主張的自己制御行動との関連は相手が誰であるかによって異なっていた。一方、エフォートフル・コントロールは、相手が誰であるかにかかわらず対人場面での自己抑制的自己制御行動へと結びつく気質と考察された。

学齢期に達すると、子どもたちはクラス集団に所属し一斉授業を受ける。子ども集団の中で進化する行動規準があると、いったシグナリング・モデルの観点からも、この時期に子どもたちが書物やメディアから多くの知的刺激を受ける機会が多くなるといった観点からも、対人場面での「自己」の制御行動は影響を受ける可能性が大きくなってくる。そのような状況において、子どもの情動反応性・情動制御性に係る気質的個人差はどの程度対人場面での「自己」の制御行動を説明するのであろうか。これが本研究の検討課題である。

方 法

2010 年生まれの第一子の子どもの母親に回答を求めるウェブ調査を実施し、524 名から回答を得た(2018 年 3 月)。調査内容は、子どもの気質測定に加え、子どもの自己調整学習を支える養育態度、子どもの対人場面での自己制御行動と母親の価値観について情報を収集した。今回の分析の対象とするのは子どもの気質と対人場面での自己制御行動である。気質は Temperament in Middle Childhood Questionnaire を翻訳して使用した。使用した気質次元は、活性化コントロール (Activation Control:AC)、主張性/優位性 (Assertive / Dominance:AD)、注意の焦点化 (Attention Focusing:AF)、恐れ (Fear:FE)、強度の高い刺激に対する喜び (High-Intensity Pleasure:HP)、衝動性 (Impulsivity:IM)、抑制コントロール (Inhibitory Control:IC)、強度の低い刺激に対する喜び (Low-Intensity Pleasure:LP)、知覚的敏感性 (Perceptual Sensitivity:PS)、シャイネス (Shyness:SH) である(7 段階評定)。子どもの対人場面での自己制御に関する項目 18 項目は就学前期に使用したものと同様である。(a)友達という場合、(b)きょうだいという場合、(c)母親という場合の 3 場面に分けて、子どもが自己制御行動をどの程度するかを 4 段階評定 (1: しない ~ 4: 非常によくする) で尋ねた。

結 果

各気質次元の α 係数は、AC=.82, AD=.78, AF=.89, FE=.74, HP=.78, IM=.85, IC=.69, LP=.71, PS=.82, SH=.72 であった。

子どもの自己制御行動 18 項目に対して因子分析(主因子法・プロマックス回転)を行い、固有値の推移・累積寄与率・因子の解釈可能性を考慮し、3 因子を抽出した。

	友達と一緒に		
	1	2	3
3 自分の意見をはっきり言う	.836	-.119	-.093
7 積極的にあれやろう。これやろうと言って、リードする	.706	-.013	.044
1 ゲームと一緒にする時、遊びのやり方や役割など、自分のしたいこと	.650	-.194	-.135
15 気に入ったことを見つければ、自分から率先してやろうとする	.632	.052	.069
5 ルール違反をされると、抗議する	.577	.090	.068
18 うれしがったり悲しんだり感情表現を大きく表す	.542	.101	-.009
12 嫌なことをされたとき、「いや」とか「やめて」と言う	.531	.036	.043
16 気に入ったものを抱きかかっているとき、「貸して」という	.469	.173	.010
10 約束を無視されたとき、抗議する	.373	.296	.033
19 一度言い出したら聞かされたり我慢されても耳を貸さない	-.112	.894	.008
13 思いどおりにいかないと、かんしゃくを起す	-.035	.679	-.114
17 「～して」と頼まれても、嫌だといって我慢し通す	.140	.543	-.068
11 何事も自分で決まないと承知しない	.195	.481	.130
4 欲しいものがすぐに手に入らなくても、我慢する	-.013	-.078	.613
10 注意されなくても、以前にしているといけないと言われることはしない	-.014	.054	.512
6 貸してと言われたら、使っているものでも貸す	.058	.049	.497
8 嫌なことがあっても、感情を爆発しない	-.133	.015	.487
2 得ててと書かれると、やりたいことでも我慢する	.085	-.168	.473

第一因子を「自己主張・自己実現の側面」、第二因子は「わがまま」、第三因子を「自己抑制的側面」と命名した。各因子に負荷する項目の加算平均値各尺度得点とした。気質各次元尺度得点と自己制御行動 3 尺度得点との相関を求めた。

	自己主張・友達	わがまま・友達	自己抑制・友達
TMQ Activation Control	.247 ***	-.260 ***	.330 ***
TMQ Assertiveness / Dominance	.585 ***	.119 **	.029
TMQ Attentional Focusing	-.023	-.320 ***	.318 ***
TMQ Fear	-.019	.105 *	.028
TMQ High Intensity Pleasure	.332 ***	.143 **	-.188 ***
TMQ Impulsivity	.316 ***	.341 ***	-.305 ***
TMQ Inhibitory Control	.014	-.325 ***	.497 ***
TMQ Low Intensity Pleasure	.039	-.155 ***	.166 ***
TMQ Perceptual Sensitivity	.246 ***	-.114 **	.210 ***
TMQ Shyness	-.428 ***	-.009	.051

活性化コントロール得点と知覚的敏感性得点は自己制御行動の主張面・抑制面双方に対してプラスの影響を与え、わがまま行動にはマイナスの影響を与えること、注意の焦点化得点と抑制コントロール得点・強度の低い刺激に対する喜び得点は、自己制御行動の抑制面にはプラスに働き、わがまま行動にはマイナスに働くことがわかった。強度の高い刺激に対する喜びを感じる子どもほど、また、衝動性が高い子どもほど、自己主張的自己制御行動をするが抑制的自己制御行動はしないことが示された。

考 察

情動制御性に係る気質(活性化コントロール、知覚的敏感性、注意の焦点化、抑制コントロール)は対人場面での自己制御行動を促進する方向で働くこと、情動反応性に係る気質(強度の高い刺激に対する喜び、衝動性)は自己主張的自己制御行動をとりやすくしている反面、自己抑制的自己制御行動をとりにくい方向で働くことが示唆された。

引用文献

水野里恵 (2017). 子どもの気質・パーソナリティの発達心理学 金子書房

本研究は科学研究費補助金(課題番号 17K04377)による助成を受けた。